

# Sharpline™ SDS-PAGE 用 タンパク質分子量マーカーセット <<Prestained low range>>

Code No.: PMW-201

Lot No.:

## 【製品内容】

Prestained low range makers :250  $\mu$ l

(各バンドの詳細は裏面をご参照ください)

Special Dye set

・SDS-Dye (-DTT) :450  $\mu$ l

・1M DTT :50  $\mu$ l

【保存条件】 -20°C

## 【製品説明】

### ●Prestained low range makers

本製品はタンパク質に青色色素を結合させた分子量マーカーです。Laemmli 法に基づいた SDS-PAGE 用に使用できます。高度に精製されたタンパク質を使用して調製されており、シャープなバンドを示します。一般的な 10~15 ウェルのミニゲルでは 5  $\mu$ l、16~20 ウェルのミニゲルでは 2.5  $\mu$ l を目安に使用しますが、ブロッティングの条件等によってはアプライ量の調整を行ってください。手で温めて溶解し、軽く混合し、アプライしてください(加熱する必要はありません)。成分に関しては、裏面をご参照ください。

### ●Special Dye set

本製品は、SDS-PAGE におけるサンプル調製用の 4×濃度 SDS-Dye のセットです。DTT(ジチオスレイトール)が別添になっており、還元条件下、非還元条件下それぞれにおいてサンプル調製が出来るようになっています。試薬の調製法は以下のように行ってください。

#### <還元条件下での使用>

SDS-Dye (-DTT) : 1M DTT = 9 : 1 で混合して使用します。添付されている試薬の全量を使用する場合、添付の 1M DTT 全量を、添付の SDS-Dye (-DTT)のバイアルに添加し混合します(⇒ラベルの DTT added? □にチェックマーク  を入れて使用すると便利です)。サンプル : SDS-Dye (+)DTT = 3 : 1 で混合し、5 分間煮沸(もしくはサーマルサイクラーで 99.9°C 処理)してから適量をアプライします。膜タンパク質等の場合、煮沸しない方が綺麗なバンドを示す場合がありますので、煮沸は必要に応じて行ってください。

#### <非還元条件下での使用>

SDS-Dye (-DTT) : 滅菌ミリ Q 水=9 : 1 で混合し使用します。添付されている試薬の全量を使用する場合、添付の SDS-Dye (-DTT)のバイアルに滅菌ミリ Q 水 100  $\mu$ l を混合します。(⇒ラベルの DTT added? □に  のようにマーカーでチェックしておくこと間違えずにご使用頂けます。サンプル: SDS-Dye (-)DTT = 3 : 1 で混合し、必要に応じ 5 分間煮沸(もしくはサーマルサイクラーで 99.9°C 処理)してから適量をアプライします。

※SDS-Dye (-DTT)の組成は、0.22M Tris-HCl (pH6.8)、8.9% SDS、グリセリン(至適量)、BPB(至適量)から成っています。全て分子生物学グレードの試薬を用いて調製されています。

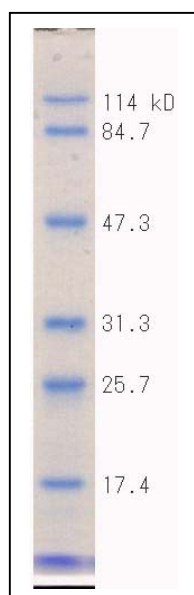
※SDS-Dye は氷上で析出しますので、手で暖めて溶解し、室温で使用してください。

【成分表】

Code No.: PMW-201

Lot No.: \_\_\_\_\_

タンパク質	由来	概算分子量
$\beta$ ガラクトシダーゼ	大腸菌	114,000
血清アルブミン	ウシ	84,700
オボアルブミン	卵白	47,300
カルボニックアンヒドラーゼ	ウシ	31,300
トリプシンインヒビター	ダイズ	25,700
リゾチーム	卵白	17,400



【注意点】

- ・本マーカ―は正確な分子量の決定には適しません。
- ・膜へ転写するとバンドの濃さが異なることがありますので、ご注意ください。